

地域の経済動向（令和5年1～3月期）

《釧路・根室地域》

1 経済動向に係る企業等の声（1～3月期）

【建設業】

【製造業】

- ・ 電気料金の値上げへの対応策について、経費節減はこれ以上無理。（水産加工業）
- ・ 水産加工は、魚種が安定しない中では設備投資ができない。（金融機関）
- ・ 冷凍商品でないため、賞味期限の問題があり、現状では販路拡大を進められていないが、自治体の補助金を活用してフリーザーを導入して事業を進める予定。ロット数が多い発注は対応できるかどうか不安がある。【パン・菓子製造販売】
- ・ スーパーのケーキ売り場への納品のほかに、個人的にオンライン販売を行っているほか、近隣のイベントなどで販売を行っている。活動範囲がハンドメイドのイベントなどのため、自治体主催の物産展などに出席できれば、と考えている。【パン・菓子製造販売】
- ・ 振興局主催の商談・相談会で繋がりを作ったシェフを招き、新商品開発に係るアドバイスを頂く予定で、店の代表になるお菓子が作れればと考えている。【パン・菓子製造販売】

【卸売・小売業】

- ・ メジャー流通が安売りをする状況にある中で、中小事業者は大手の安売りに右倣えする以外にすべがない（右倣えしないと消費者にも小売業者にも買ってもらえない）。大手が適切な価格転嫁をしない限り、中小が価格転嫁することは不可能（卸売、食品加工業）。
- ・ 行動制限はなくなってきたが、商店街への客数はコロナ前の水準に戻っていない。【経済団体】
- ・ 地域の大型小売店で、最低賃金を大きく超える賃金で募集をかけており、地域の小規模な事業者は人手の確保に苦労している。【経済団体】
- ・ 商店街の中には、長年、従業員を募集している商店もあるが、充足されない状況。【経済団体】
- ・ 商店経営者の高齢化が進んでいるが、コロナ禍の中、経営の先行きが不透明なことも影響し、後継者がいない。【経済団体】

【運輸業】







【サービス業】

- ・ 地域の基盤産業となっている酪農業で、飼料価格の高騰や子牛の価格低下などで影響を受けた酪農者が地域での飲食を減らしたことにより飲食店が廃業するなど影響が出ている。今後、飼料やエネルギー価格高騰の先行きが見えない中で、こうした影響が更に深刻化する可能性があると考えている。【経済団体】
- ・ 地元の食材にこだわっており、商品に乳製品は必ず使用するが、商品は自社製造ではなく外部で製造しているため、単価が高くなってしまふ。【飲食店】
- ・ 催事を中心に行っている事業者の販売してもらおうほか、北海道百科、ふるさと納税、きたキッチンでも取扱してもらおう予定。常設店舗であれば道内中心、道外であれば催事中心でやっていきたい。【飲食店】
- ・ 無料の専門家派遣制度などを活用したいと思っている。ノーステック財団の補助金を活用し、来年度以降に商品開発も行っていきたい。【飲食店】
- ・ ちょっと暮らしの人気の高いので、本州の人で毎年ホテルに泊まるのであればと釧路の中古の家を買う人が増えている。（金融機関）
- ・ パートが増えてくれればありがたいが、人件費との兼ね合いもあるため、現状は様子を見ながら増やすかどうか検討していく。【飲食店】





【全体】

- ・ コロナの影響、燃料・資材の高騰と経費節減に取り組んできたので、これ以上は節減できない。（商工会）
- ・ ゼロゼロ融資について、売上が戻っていないところは気をつけなくてはならない。（商工会）
- ・ 昨年からの産地の天候不順やコスト増加により原材料の仕入れ値が上がっている。タマネギについては一時期、例年の約5倍の価格となった。【経済団体】
- ・ 業種を問わず、人手不足の状況となっている。進学希望者も管内に戻る人は少ない。【経済団体】

























2 道内金融機関から見た地域景況感 (1～3月期)

① 非常に好調 	② 好調 	③ やや好調 	④ 普通 	⑤ やや低調 	⑥ 低調 	⑦ 非常に低調 
---	--	--	--	--	--	---

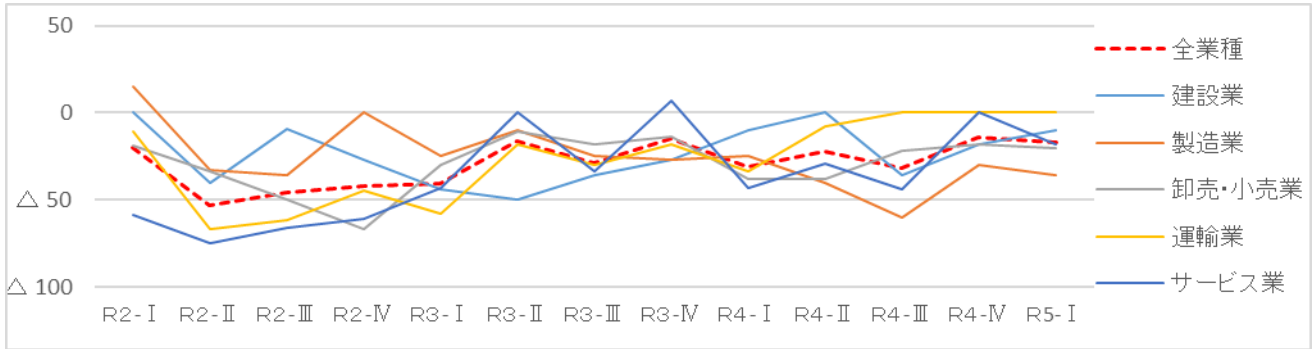
【直近の景況感】

	現在の景況感				次期見通し	
	総合	生産 動向	消費 動向	判断理由	方向感	判断理由
釧路信用金庫				生産は弱めの動きがみられるものの、物価上昇の影響を受けつつも、個人消費に持ち直しの動きがみられることから、全体の景況感は緩やかに持ち直している。ただし、原油価格・物価高騰等の影響、人手不足等の影響については注視する必要がある。		新型コロナウイルスの影響があった反動から個人消費が緩やかに持ち直していることから、全体として緩やかな持ち直しの動きは続く判断している。ただし、原油価格・物価高騰等の影響、人手不足等の影響がほぼ全ての業種でみられることから、注視する必要がある。
大地みらい 信用金庫				漁業では、燃料、資材費高騰から経費支出が増加傾向。出漁時にはロシア当局による「拿捕」や「臨検」を警戒する状況が継続。ロシア側との漁業交渉の先行き不透明さが及ぼす影響が大きい。酪農業では、飼料において国際需給の逼迫や米国での収量不安からトウモロコシ相場が高騰し、円安の影響も受け経費増加。先行きの不透明感から事業継続断念し離農する酪農家が増加。同様の状況が長引いた場合、地域全体に与える影響は相当大きい。建築土木業では、資材高騰、金利情勢の変化などにより住宅購買需要が低下。公共工事は大きく減少していないが、先行きは不透明感が強い。消費動向については、基幹産業の不振(漁業、酪農)、物価上昇による消費行動への影響が大きく、購買意欲は低調に推移。総合的にみても景況回復につながる好材料が少なく、設備意欲、雇用など低調さが続く判断。		左記景況感の判断理由に基づき、同状況が短期間で解消される可能性は低く、今期同様の景況見通しと判断。

【景況感の推移】

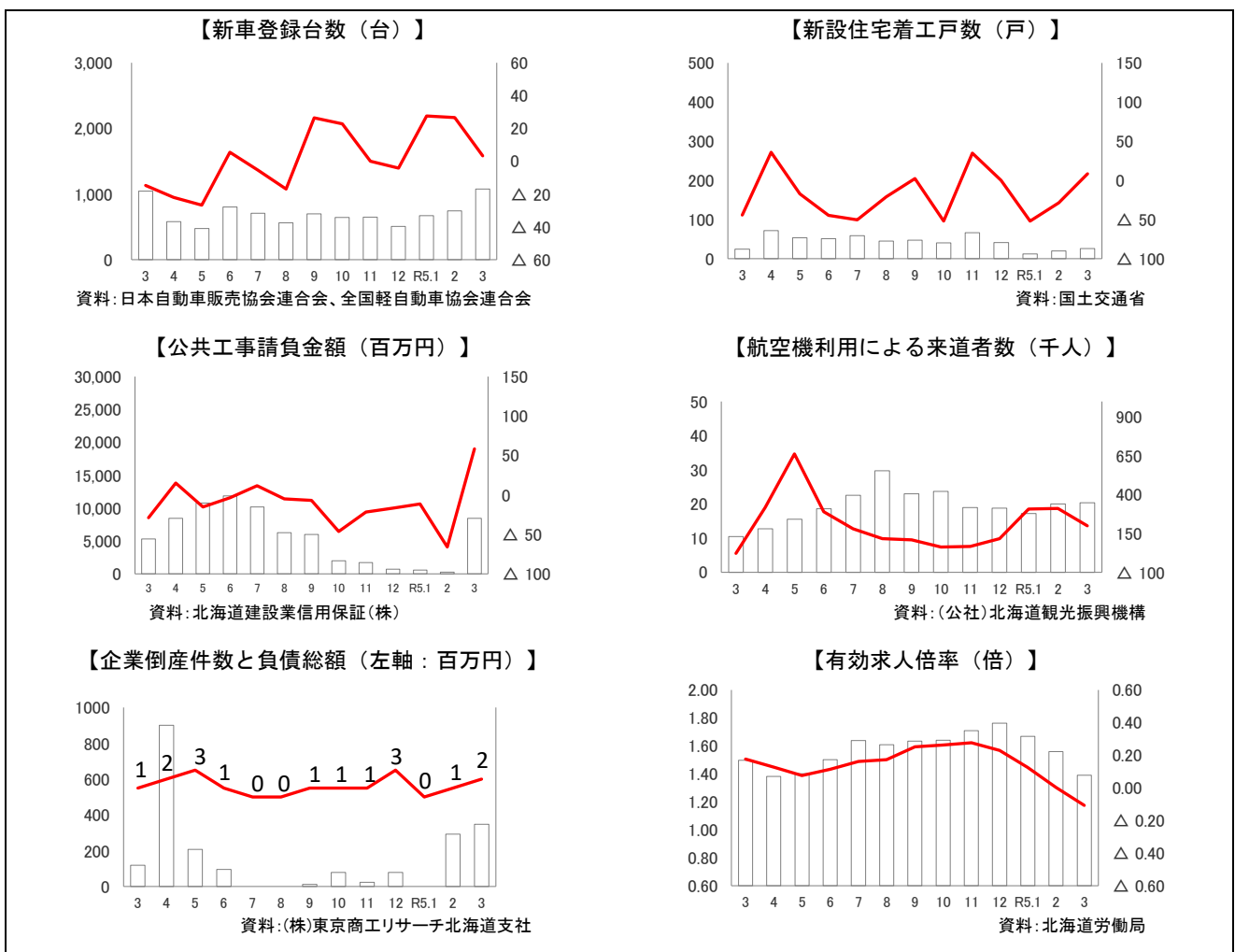
	R3-II 	R3-III 	R3-IV 	R4-I 	R4-II 	R4-III 	R4-IV 	R5-I 
釧路信用金庫								
大地みらい 信用金庫								

3 業種別の業況感BSI (企業経営者意識調査)



	R2-I	R2-II	R2-III	R2-IV	R3-I	R3-II	R3-III	R3-IV	R4-I	R4-II	R4-III	R4-IV	R5-I
全業種	△ 20	△ 53	△ 46	△ 42	△ 41	△ 16	△ 29	△ 15	△ 31	△ 22	△ 32	△ 14	△ 17
建設業	0	△ 40	△ 9	△ 27	△ 44	△ 50	△ 36	△ 27	△ 10	0	△ 36	△ 18	△ 10
製造業	15	△ 33	△ 36	0	△ 25	△ 10	△ 25	△ 27	△ 25	△ 40	△ 60	△ 30	△ 36
卸売・小売業	△ 19	△ 34	△ 50	△ 67	△ 30	△ 11	△ 18	△ 14	△ 38	△ 38	△ 22	△ 18	△ 20
運輸業	△ 11	△ 67	△ 62	△ 45	△ 58	△ 18	△ 30	△ 18	△ 34	△ 8	0	0	0
サービス業	△ 59	△ 75	△ 66	△ 61	△ 43	0	△ 34	7	△ 43	△ 29	△ 44	0	△ 18

4 各種経済指標



(右軸: 来道者数のみ前々年同月比、その他は前年同月比(差): %)